

歴史学的視角から分析する東アジアの都市問題と環境問題

妹尾 達彦 (中央大学 文学部 教授)

【概 要】

われわれの生活している地球が、現在数多くの困難に直面していることは疑いありません。その内、人類の急速な都市化の進展がもたらす都市問題と、地球環境の変貌から生じる環境問題は、われわれ人類が直面している最も大きな問題群をなしています。とくに、今日、世界最大の人口規模と巨大な経済力を備えた東アジアの直面する都市・環境問題は、地球全体の未来を左右する重みをもっています。

本研究の目的と意義は、東アジアの都市と生態環境の相関関係の歴史的変遷を分析することで、現在の地球が直面する都市問題と環境問題を、歴史的背景にさかのぼって明らかにすることです。空間的には、中国大陸を中核とする東アジアを対象に、時間的には、東アジアに都市文明が誕生した紀元前 15 世紀から、21 世紀の現在に至る長い時間帯の中で、都市・環境問題を分析します。本研究によって、現状分析に重きをおいた従来の都市・環境問題への視点でぬけ落ちていた、都市・環境問題の淵源と、両者の密接な関わり合いの経過を、人類の長い歴史の中で、初めて体系的に明らかにしてゆきたいと考えています。

【期待される成果】

限られた 5 年間の研究期間の中で最大の成果を挙げるために、本研究では、東アジアの歴代の都城の生態環境の変遷の問題を中心に分析します。東アジアの各時期と各地域の特色を集約する都城を分析の中心におくことによって、東アジア各地域の都市と生態環境の比較分析が容易となり、今日の近代国家の首都がかかえる都市・環境問題に関しても、歴史分析をふまえた、より具体的な提言ができると思います。

本研究により、(1)現地調査にもとづく、東アジアの都市と環境の歴史に関する情報を集大成して公刊し、(2)都市環境の歴史を復元する図の作製とデータベースを作成し、(3)関係文献目録と研究史を整理・公刊して、都市と環境の歴史的相関性を解明します。

【関連の深い論文・著書】

妹尾達彦 『長安の都市計画』 (講談社、2001 年)

妹尾達彦(鶴間和幸氏と共編) 『アジア遊学 20 特集「黄土高原の自然環境と漢唐長安城」』 (勉誠社、2000 年)

【研究期間】 平成 16 ~ 20 年度

【研究経費】 82,600 千円

【ホームページ】 <http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/hakuto/index.htm>

